



カケハシ・プロジェクト招へいプログラムの記録

対象：米国若手研究者招へい（日米協会）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国より大学院生5名が各々の日程で日本研究のため来日しました。各地の大学や企業、国立国会図書館などで研究に励み、幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて対外発信を行いました。また、報告会では訪日経験を活かした、帰国後のアクションプラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：5名

【訪問地】

東京都（5名）、京都府（3名）、兵庫県（2名）、青森県（1名）、岩手県（1名）、秋田県（1名）、宮城県（1名）、福島県（1名）、新潟県（1名）、福岡県（1名）、香川県（1名）、熊本県（1名）、鹿児島県（1名）

2. 日程

カリフォルニア大学学生

6月23日（土） 【来日】

6月25日（月） 【オリエンテーション】

6月26日（火）～7月26日（木）

【研究】武蔵大学および国会図書館をメインに研究資料の収集

7月17日（火） 【意見交換】日米協会プログラム「NGRT」、日本人および米国人と日米についてディスカッション

7月27日（金） 【成果報告会】日米協会

7月30日（月） 【離日】

ハーバード大学学生

5月21日（月） 【来日】

6月2日（土） 【オリエンテーション】

6月4日（月） 宮城県へ移動

6月5日（火）～ 7月27日（金）

【研究】仙台を拠点に調査

7月27日(金) 東京都へ移動
8月9日(木) 【成果報告会】日米協会
8月11日(土) 兵庫県へ移動
8月13日(月) 【研究】インタビュー実施
8月18日(土) 【離日】

シカゴ大学学生

6月1日(金) 【来日】
6月2日(土) 【オリエンテーション】
6月4日(月) 京都府へ移動
6月5日(火)～8月8日(水)
【研究】京都大学付属図書館を中心に研究調査
8月9日(木) 東京都へ移動
【成果報告会】日米協会
8月9日(木)～8月15日(水)
【研究】国立国会図書館にて調査
8月16日(木) 【離日】

カリフォルニア大学学生

7月1日(日) 【来日】
7月5日(木) 【オリエンテーション】
7月7日(土) 鹿児島県へ移動
7月7日(土)～8月28日(火)
【研究】各都市を周りマクロビクスについて調査
8月28日(火) 東京都へ移動
8月29日(水) 【成果報告会】日米協会
8月31日(金) 【離日】

ハーバード大学学生

9月10日(月) 【来日】
【オリエンテーション】
9月11日(火) 京都府へ移動
9月12日(水)～9月25日(火)
【研究】京都および淡路島で研究
9月26日(水) 東京都へ移動
9月29日(土) 【研究】国立音楽大学にて特別講義を実施
10月2日(火) 【成果報告会】日米協会
10月5日(金) 【離日】

3. プログラム記録写真 カリフォルニア大学学生



【研究】研究資料の収集



【研究】デモ参加者と政治について意見交換

ハーバード大学学生



6/20 【研究】非営利団体「イコールネット仙台」代表にインタビュー



6/28 【研究】被災地大川小学校視察

シカゴ大学学生



6/10 【研究】研究対象のフランス喫茶室



8/9 【成果報告会】日米協会

カリフォルニア大学学生

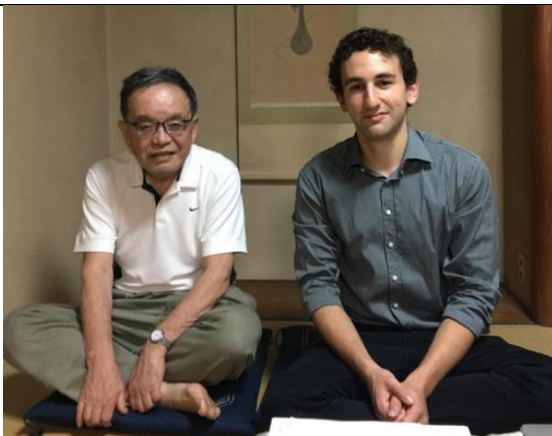


7/4 【研究】櫻澤如一資料室スタッフヘンタビュー



8/29 【成果報告会】日米協会

ハーバード大学学生



9/23 【研究】田中正平の子孫と面会



9/29 【研究】国立音楽大学にて特別講義

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日米協会の支援がなければ、この研究を実施することができませんでした。来日に先立ち、研究プロジェクトをハーバード大学の教授 3 人から承認して頂き、期間中のタスクが決まりました。毎週のレポートを書くことで、考えを整理し、タスクを整理するのに役立ちました。助成金のおかげで、東北、関東から関西まで研究対象者にインタビューすることができました。14 人もインタビューできるように長期間日本に滞在しなければなりませんでした。助成金のおかげでその滞在が可能でした。

プログラムを改善させるために、私は一つ提案をします。プログラムが始まる前に受賞者に日米協会の期待をできるだけ明確にして頂きたかったです。自分の研究計画を申請書に詳述し、選んで頂きましたので、日米協会の皆様がその計画を把握されていたかと思いました。しかし、報告会では、日米協会の皆様が私の計画を良く理解していないことに気付きました。私は研究プロジェクト(Socio-economics and Subculture in Japan)をもう一度説明しなければならないように感じました。

◆ この夏、様々な研究資料を取り集めることができ、とても有意義でした。今まで京

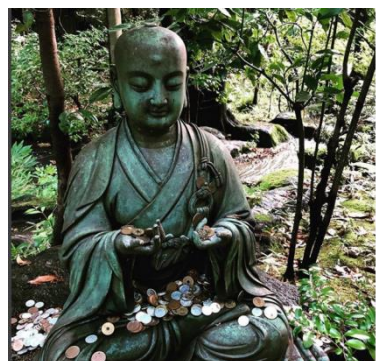
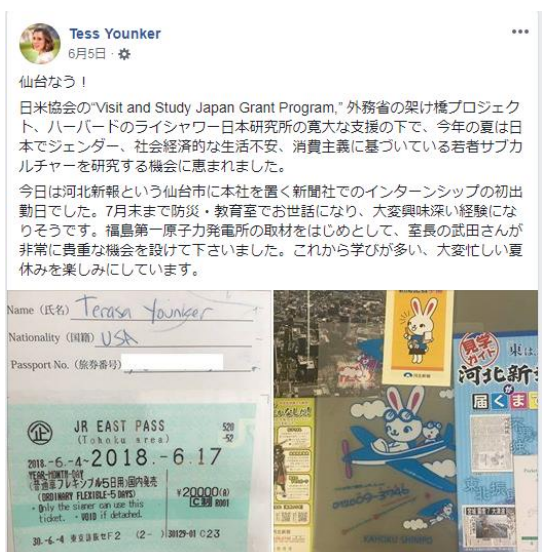
都に長期間滞在をしたことがなかったので、社会的・文化的・地理的な事がよく理解できていませんでした。しかし今回の経験を通し、京都の文化的・社会的・地理的なことを理解できるようになり、また研究に対する自信を持てるようになりました。

私はこの奨学金プログラムにとっても満足しました。約2ヶ月間自由に研究できるという奨学金プログラムは、他の日本研究奨学金にはないと思います。滞在期間や自由に活動できる環境は、研究を進める上でとても大切だと思います。

◆ 日本での研究に惜しみない支援を頂きとても感謝しております。アメリカ人学生が日本で研究をし、また日本人学生がアメリカで研究（米国研究助成プログラム（日米協会主催））をし、相互に交流ができることはとても素晴らしいことだと思います。

また、事務局で実施した報告会では、協会会員と交流ができとてもいい経験になりました。スケジュールを自由に調整できることや支援額は、論文を完成させるうえで必要不可欠なものでした。

5. 参加者の対外発信

 darumabluu・フォロー中 東京都庁第一本庁舎北展望台 Tokyo Met... darumabluu Great view after a bit of resource checking. #takehashi #jps いいね 13件 7月13日 コメントを追加...	 darumabluu・フォロー中 近畿東部地区 darumabluu Tips appreciated. いいね 110件 7月13日 コメントを追加...
都庁で研究のための情報を収集後、都庁展望台へ。	研究の合間に日本文化に触れました。（根津美術館）
 Tess Younker 6月5日 · 桜 仙台なう！ 日米協会の"Visit and Study Japan Grant Program," 外務省の架け橋プロジェクト、ハーバードのライシャワー日本研究所の莫大な支援の下で、今年の夏は日本でジェンダー、社会経済的な生活不安、消費主義に基づいている若者サブカルチャーを研究する機会に恵まれました。 今日は河北新報という仙台市に本社を置く新聞社でのインターンシップの初出勤日でした。7月末まで防災・教育室でお世話になり、大変興味深い経験になりそうです。福島第一原子力発電所の取材をはじめとして、室長の武田さんが非常に貴重な機会を設けて下さいました。これから学びが多い、大変忙しい夏休みを楽しみにしています。 Name (氏名) Terasa Younker Nationality (国籍) USA Passport No. (旅券番号) JR EAST PASS (Tohoku area) 2018-6-4-2018-6-17 ¥200,000 (a) 20-6-4 東京駅東口2F (2-) 30129-01 023	 Tess Younker 7月27日 12:22 · 東京なう！ 昨日仙台の河北新報でのインターンシップが終了しました。毎日が新鮮であり無敵な中で過ごしましたが、終わってからは本当にあっという間の2ヶ月でした。被災地の復興で心身に侵されていますが、日米協会のVisit and Study Japan Grant Program、外務省の架け橋プロジェクト、ハーバードのライシャワー日本研究所の莫大な支援の下で、東北の歴史、文化、社会問題について学ぶこの貴重な機会に心から感謝しています。自分の経験を河北新報のブログに載せましたので、興味がある方はどうぞ見てください！ https://www.kahoku.co.jp/special/spe1151/ 今日から8月12日まで東京で国会図書館の保管資料を調査したり、ロータリーの研究対象者にインタビューしたり、イベントを取材したりします。日本滞在期間は後3週間しか残っていませんが、その時間を最大限に活用します！
当プログラムで来日して、これから活動する内容を発信しました。	仙台から東京に戻り、インタビューや資料調査などをしました。

 Dylan Hallingstad O'Brien 7月28日 Today I had one of the best meals of my life. Before leaving Kyushu, I traveled to Kurume (a bit of a ways out from Fukuoka City) and dined at Haze (はぜ). I talked with the chef afterwards, and it was one of my most interesting talks to date. If you are ever in Kumamoto, Fukuoka, or Saga, make the trip. Some of the best vegan/macrobiotic food in the world. 九州を出る前に私は福岡県久留米市の「はぜ」というマクロビなレストランで食べました。この前私はこんなに美味しいお野菜料理食べたことがない。是ごろはんとシェフはレストランとマクロビな生活について話しました。この会話は本当に良かったです。もし九州に行くなら、食べてみてください。	 Dylan Hallingstad O'Brienさんが投稿をシェアしました。 8月16日 In an example of rather fantastic timing, I sat outside my favorite cafe in the world reading on Sunday, only to look up from my book and see a familiar face - Hiro, who I met at the same cafe three years ago. Back then, we got to talking and he took Homer and me to Morioka's Karakoma for lunch. Yesterday, I went with him and two of his former students once again. Hiro is the type of supportive teacher we should all aspire to be; the way he encourages and supports his students is amazing. Their affection for him longer after testifies to this. What a magical city Morioka is.
マクロビの研究の為に常には食事はマクロビレストランに行き、シェフにインタビューを行いました。(久留米市)	盛岡のマクロビレストランにて。
 kapetens2 • フォロー中 • Salon de la Francophonie kapetens2 Made it out to Cafe Francois (フレンチカフェ) this afternoon—a major site for left- (and right-) living student activism among Kyoto University students and teachers in the 1930s. Nakai Masakazu frequented it, and the menu was originally designed by Foujita Tsuguharu (Leonard). Both the menu and the decor were revamped in the 40s, the latter based on an Italian liner, or so the books say. Appreciation to goes to #日本協会 and #カクパン for funding support and to #フレンチ.	 dannywalds • フォロー中 Tokyo, Japan dannywalds The unexpected geometries of just intonation, once upon a time the music of the future. This week I got to open up Tanaka Shiro's harmonium (調音機) in Tokyo. Thank you to the Visit and Study Japan Program supported by the America-Japan Society for bringing me to Tokyo and Kyoto for research, letting me finally take a look inside! #AJZ #kakehashi
研究対象の中井正一氏が通っていた喫茶にて。	純正調オルガンの紹介

6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

今回の研究の成果を、Association for Asian Studies や Western Conference of the Association for Asian Studies などのいくつかの学会で発表する。

サンディエゴを拠点とする日米関係の団体に、今回の経験を共有する。

2018 年 9 月 18 日まで：インタビューと書き写しとコーディング，論文概要を完成

2018 年 12 月 1 日まで：論文の第一原稿を完成させ，博士課程プログラムに申請

2019 年 2 月：ハーバード東アジア協会の学会での研究について発表

2019 年 3 月：ハーバード大学に論文を提出

2019 年 5 月：学術誌に掲載論文を提出

・ 今後は京都学派の研究（論文の第 1 のセクション）を継続する。 （この夏の研究では、殆どを第 1 セクションの第 1 章（京都学の伝統的なメンバー（西田幾多郎、田辺元と和辻哲郎）の研究）と第 3 章（中井正一と彼の同人雑誌のメンバーの研究）を集中的に取り組んだ。） ・ この秋再び京都に戻り第 1 章と第 3 章を完成する。 ・ その後、第 2 セクションの研究を行う。（主に文学と美術史の分野を研究調査）
・ 今年 10 月、ノースカロライナ州の大学で研究発表予定。 （トピック：ヴェジタリアンとマクロビオティック考え方の違いについて）。 ・ マクロビオティックについてのインタビューを継続する。 ・ 修士論文の作成。
・ 研究に関係する写真、メモ、録音したものを整理する。 ・ 研究結果を要約し、指導教授と話し合う。 ・ 3 月末までにチャプター4&5 を完成させる。 ・ 以下のいくつかのサイドプロジェクトの資料が十分にあるかを判断する。 -明治期における西欧の音楽家 -1930 年代から 1945 年の日独の音楽交流 -ドイツ系ユダヤ人芸術家（レオニード・クロイツァー、ブルーノ・タルクト）と反ユダヤ主義の台頭する 1930 年代のドイツ人協力者立ちとの交流